

(1) 人口の減少と高齢化の進展

- ◆人口の減少した地域では、需要にあった効率的な運行を行うことが必要です。
- ◆また、進展する高齢化に対応するためにも、自家用車に頼らない自立した生活を支える公共交通の構築が必要です。

(2) 日常生活で利用しにくい運行ダイヤとルート

- ◆通院や買物などで、行きは良くても帰りに利用しにくい路線、通院などが一日仕事になる路線などがあり、公共交通を利用しにくい状況にあります。日常生活を送る上で利用しやすいダイヤやルートを検討する必要があります。

(3) 周辺市町に拡散した移動

- ◆備前市では、隣接する岡山市や和気町、瀬戸内市、赤穂市などへの移動が多く見受けられており、市内での消費活動が少なくなっています。これらの移動ニーズに対応しながらも、市外への移動を市内への移動に誘引し、市内経済の活性化に寄与する公共交通の構築が必要です。

(4) 利用者の減少

- ◆各種調査の結果より、備前市内の路線にはルートやダイヤなどの改善により利用者が増加する余地があると考えられます。市民の移動ニーズを踏まえて、潜在需要を掘り起こすサービスの提供が必要です。
- ◆また、「公共交通を守る」ということを市民が再認識する必要があります。

(5) 財政負担の増加

- ◆市営バスの運行や民間路線バスへの補助などにより、行政負担は増加傾向にあります。今後持続可能な公共交通体系を構築していくためにも、需要や居住形態に応じた効率的なサービスを検討し、財政負担が極力少なくなるような対策が必要です。

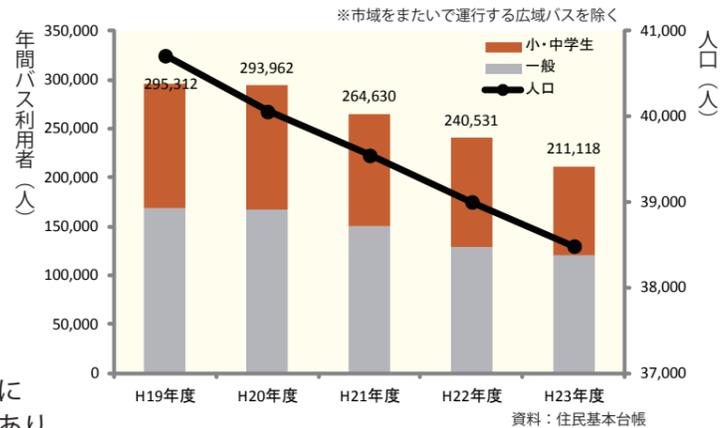
(6) 架橋後の公共交通

- ◆諸島地区では、平成27年3月には鹿久居島と本土とを結ぶ日生大橋（仮称）が完成予定で、本土から鹿久居島、頭島が陸続きとなります。現在も定期船利用者は年々減少傾向にあり、航路の維持確保が課題となっています。このため、架橋後に離島として残る大多府島・鴻島と本土とを結ぶ旅客船や頭島・鹿久居島の新たな公共交通手段の確保など、架橋後の新たな交通体系の検討が必要です。

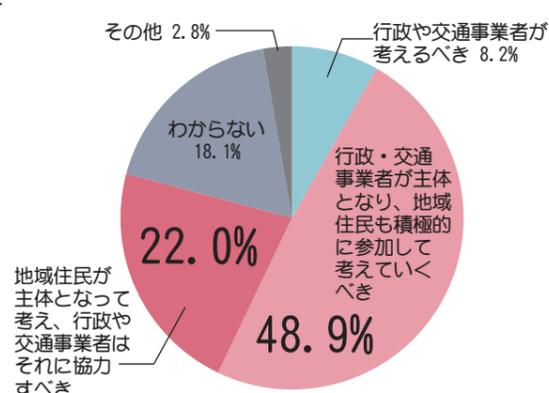
(7) 観光における公共交通の役割

- ◆備前市には多くの観光資源がありますが、それぞれが点在しています。これらを結ぶ公共交通も不足しており、マイカー来訪者の増加による渋滞発生や駐車場の不足といった問題も発生しています。
- ◆「おもてなし」の考えからも公共交通の充実が求められますが、観光目的での移動に対して、路線バス等では対応することは費用対効果において困難です。これに代わる新たな施策が必要です。

備前市内を運行する路線バス・市営バス利用者数と人口の推移



今後の備前市の公共交通政策に対する考え方



《お問合せ先》

備前市 総務部企画課 企画政策係

TEL : 0869-64-1871 FAX : 0869-64-3845

E-mail : bzkikaku@city.bizen.lg.jp

基本理念

地域の生活とまちづくりを支える公共交通

市民が元気に安心して暮らせるまちづくりに向けて、これを支える持続可能な公共交通を目指します。

基本目標

生活を支える公共交通

買物・通院・通学といった日常生活を支え、市民が元気に安心して暮らせる基盤づくりのための公共交通を目指します。

地域活力の向上に資する公共交通

市内の主要拠点間の移動利便性を高め、地域経済の活性化や地域間連携の強化に資する公共交通を目指します。また、観光振興につながる公共交通の役割を検討していきます。

持続可能な公共交通

交通需要に応じた公共交通の役割分担の明確化により、効率的な公共交通の運用を目指します。また、市民や企業等と協働し、みんなで「つくり」「守り」「育てる」公共交通を目指します。

目標達成に向けた取組方針

- (1) 生活を支える利用しやすい公共交通
- (2) 市内まちづくり拠点の連携強化
- (3) 役割分担の明確化
- (4) モード間の連携強化
- (5) みんなで支える公共交通
- (6) 架橋後に向けた諸島地区の交通体系の検討
- (7) 観光資源を活かす公共交通

事業内容

①まちづくり拠点の活性化に向けた交通再編（基幹路線）

- ・都市計画との整合
- ・鉄道との接続強化
- ・片上地区と伊部地区の連携強化

②各地域のまちづくりを支える公共交通（支線）

- A) 吉永・神根・三国地区の運行再編
- B) 三石・伊里地区の運行再編
- C) 西鶴山・東鶴山・香登地区の運行再編

③みんなで支える公共交通の仕組みづくり

- ・住民との協働による地域内公共交通の再編
- ・民間活力による公共交通支援の仕組みづくり
- ・モビリティ・マネジメント*（住民・学校・職場）

④利用しやすい公共交通の環境整備

- ・わかりやすい情報提供ツールの作成
- ・まちづくりと一体となった拠点づくり
- ・バス車内環境の整備

⑤離島生活を支える交通施策

- ・大多府島・鴻島の持続可能な定期船のあり方の検討
- ・頭島・鹿久居島の新たな公共交通サービスの検討
- ・総合的な生活支援

⑥元気な備前市に向けた公共交通の活用施策

- ・タクシーを活用した観光振興施策の検討
- ・地域行事やイベントとの連携

*1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向に変化することを促す交通政策



事業概要

①まちづくり拠点の活性化に向けた交通再編（基幹路線）

- 《都市計画との整合》
備前市都市計画マスタープランで定められた都市拠点、地域拠点、生活拠点、集落拠点をまちづくりの拠点とし、これら拠点間を結ぶ基幹路線を設けます。
- 《鉄道との接続強化》
周辺市町への移動ニーズに対応するため、広域移動を担う鉄道との接続を強化します。
- 《片上地区と伊部地区の連携強化》
「片鉄片上」バス停から「備前病院」、「伊部駅」区間において乗り換えが生じない、路線・ダイヤを事業者との調整を行いながら検討します。

②各地域のまちづくりを支える公共交通（支線）

- 地域内公共交通（支線）検討にあたっての基本的な考え方
- 生活を支える公共交通**
 - 交通空白地域の解消
 - 利用者の生活を考慮した路線・ダイヤの設定
 - 通学利用便の確保
 - 地域活力の向上に資する公共交通**
 - まちづくりを支える公共交通
 - 基幹路線との接続強化
 - 地域との協働による計画・運行
 - 持続可能な公共交通**
 - 需要に応じた運行サービス
 - 効率的な運行
 - 乗合交通としての運行



②-A) 吉永・神根・三石地区の運行再編（支線）

②-B) 三石・伊里地区の運行再編（支線）

②-C) 西鶴山・東鶴山・香登地区の運行再編（支線）

⑤離島生活を支える交通施策

- 《大多府島・鴻島の持続可能な定期船のあり方の検討》
定期船は島と本土とを結ぶ唯一の生活航路です。架橋後も安定した島民生活を確保しつつ、将来にわたって持続的な航路が確保されるよう、そのあり方を検討します。
- 《頭島・鹿久居島の新たな公共交通サービスの検討》
架橋後の海上交通に代わる新たな公共交通手段について、島民の移動ニーズ等を踏まえて、住民との協働により検討します。
- 《総合的な生活支援》
医療・買物など生活全般について、例えば買物代行サービスを交通事業者や商業施設との協働で検討するなど、総合的な観点から「住み良い島」に向けた施策を検討します。

住民との協働による地域内公共交通の再編

地域住民と協働で、地域内公共交通サービスの計画や地域内でバスを支える仕組みなどを検討することで、地域のバスを地域で守る意識を醸成します。



民間活力による公共交通支援の仕組みづくり

商業施設や医療機関、その他の事業者など、「まちづくりに貢献したい民間事業者」などが協賛しやすい仕組みを構築します。

- 《民間企業・団体との連携例》
企業からの広告募集／バス停アダプト制度^{*1}／バス利用者に対する買物割引（協賛店の募集）／商業施設や商店街などと連携した宅配サービス／バスサポーター制度 など

③みんなで支える公共交通の仕組みづくり

モビリティ・マネジメント（住民・学校・職場）

住民や小学校の児童、通勤者向けのモビリティ・マネジメント^{*2}をそれぞれ実施し、公共交通の利用促進を図ります。

- 《住民モビリティ・マネジメントの取組例》
公共交通の利用を呼び掛ける情報提供／バス支援の見える化／応援券や回数券などの発行／バスの愛称募集／転入者への公共交通情報の紹介など
- 《学校モビリティ・マネジメントの取組例》
出前講座（バスの乗り方教室など）／課外授業／公共交通で遠足（地域間交流）／公共交通すごろくの作成／公共交通ポスターコンクール（バス車内での掲示）／児童・生徒によるバス車内放送など

わかりやすい情報提供ツールの作成

わかりやすく見やすいバスマップや時刻表を作成し、誰もが利用しやすい公共交通とします。



まちづくりと一体となった拠点づくり

まちづくり拠点に位置するバス停のインフォメーションや待合環境の充実、バリアフリー化などの環境整備を進めます。また、JRの利用がしやすくなるよう、駅周辺の駐車場整備やバリアフリー化等を検討します。

④利用しやすい公共交通の環境整備



バス車内環境の整備

路線図やバス利用状況などの情報提供について、バス車内でも確認しやすい環境を整備します。

タクシーを活用した観光振興施策の検討

タクシーを活用した観光振興施策を検討することにより、市内に点在する観光資源の付加価値を高めるとともに、公共交通の一翼を担う市内タクシー産業の活性化を図ります。

⑥元気な備前市に向けた公共交通の活用施策



地域行事やイベントとの連携

外出しなくなる行事やイベントの実施、さらにそれらイベントのタイムスケジュールなどを公共交通機関のダイヤに極力合わせる取組を行い、外出機会の増加を図ります。

目標達成に対する評価指標の設定

本計画の目標達成に対する評価指標として、下記の指標を設定します。この内、指標①～③は、(仮称)備前市新総合計画で示された指標です。

目標指標	現状値 (H24 年度)	目標値 (H28 年度)
指標① 週1回以上公共交通(バス)を利用している市民の割合【市民意識調査】	3.3%	7.0%
指標② 路線バス(備前バス)1便あたりの平均乗車人数【乗降調査】	9人	10人
指標③ 市営バスと補助対象民間路線バスの運行維持・確保に係る市民1人あたりの税金投入額(直接事業費)	2,000円	2,500円
指標④ 備前市内を運行するバスを買物目的で利用する人の割合【アンケート調査】	19.4%	21.4%
指標⑤ バス利用者のよく利用する買物先が備前市内のみである割合【アンケート調査】	44.4%	50.0%

*1 バス停アダプト制度：バス停に隣接する企業や施設などによるバス停周辺環境の整備
*2 モビリティ・マネジメント：1人1人のモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向に変化することを促す交通政策